

施策コード	1-3
-------	-----

中心所管課	長寿課
関連所管課	健康推進課／保険年金課／市民病院事務局

第1章	笑顔つながる幸せに暮らせるまちづくり -健康・福祉-							
基本施策名	3 高齢者福祉							
総合計画の目標指標								
指標名	単位	策定時	実績値			目標値		SDGs独自指標
		R2	R3	R4	R7	R12		
在宅医療の実現が可能だと思う人の割合	%	21.2	-	27.4	26.0	30.0		
要支援1、2の介護度の維持(要支援1)	%	69.4	59.5	60.2	70.0	70.0		
要支援1、2の介護度の維持(要支援2)	%	77.8	71.1	69.8	80.0	80.0		
手助けやボランティアをしているまたはしたい人の割合	%	26.4	-	23.4	30.0	35.0		
認知症の介護に関する不安や自分が認知症になることへの不安が軽減できている人の割合	%	41.3	-	41.7	65.0	70.0		
60歳以上が「住みやすい」と実感している割合	%	38.7	-	29.7	42.0	44.0		

施策の内容(主な取組)		
単位施策名	実績・成果	今後の方向
1 介護予防の取組支援	地域包括ケア推進協議会介護予防推進部会を年3回実施した。 地域活動の場等において、フレイル予防(食事・口腔・運動)について健康教育等を25会場で60回実施した。参加延人数は950人。	介護予防推進部会などにおいて、高齢者の現状・課題等を関係機関と共有し、フレイルリスクの高い人を早期に発見し、支援につなげる体制の整備を進める。
2 地域で支え合う仕組みづくり	地域での支え合い活動について話し合う「地域支え合い座談会」を市内11地区で計96回開催し、延べ1,159人の参加があった。	地域の困りごとや社会的な課題などを高齢者が中心となって支える体制を構築し、加えて社会参加による高齢者の介護予防の促進を図る。
3 安心して在宅医療・介護を受けられる体制づくり	連携強化・支援体制強化のため、多職種間で顔の見える関係性を構築するための多職種研修会を実施した。 一定の要件を満たす後期高齢者医療制度の被保険者に対し医療費の一部を支給した。	多職種間で在宅医療介護の連携に係る課題等を共有し、連携強化・支援体制強化を図る。 安心して医療を受けられるよう、他制度との調整を行いつつ医療費助成の取り組みを進める。
4 認知症になっても安心して生活できる地域づくり	認知症の啓発活動として、9月の世界アルツハイマー月間に合わせ、VR体験会や夜の認知症サポーター養成講座など各種催事を行った。 高齢者見守りサポーターステップアップ講座を実施し39名が受講した。	9月の世界アルツハイマー月間に合せ、市民向け講演会など各種催事を行い認知症の啓発活動を引き続き実施していく。 認知症の方やその家族の方を支えるための見守り事業等を展開する。
5 安全で住みよい環境づくりの推進	災害時等での助け合いの仕組みとして構築した電源あんしんネットワークへの登録者の増加を図るとともに対象者に避難訓練を実施した。 地域の助け合いの仕組みとなる避難行動要支援者登録制度への登録者増加を図った。	助け合いの仕組みを周知し、登録者数の増加を図る。 また、高齢者のニーズに応じた住宅や生活環境の充実を図る。

個別計画の目標指標								
計画名	蒲郡市第9期高齢者福祉計画				計画期間	令和3年度～令和5年度		
指標名	単位	策定時	実績値				目標値	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R12
後期高齢者健診の受診率	%	24.1	23.0	27.0				
シルバー人材センター就業会員数	人	723	786	842				
東三河ほいっぶネットワーク蒲郡市の年間患者記事投稿数	件	1,797	1,786	3,443				
認知症サポーター養成数	人	98	346	287				
電源あんしんネットワーク登録者数	人	24	42	40				

主要事業の実績評価					
施策番号	事業名	事業費(千円)		実績(R4年度)	今後の方向
		R4(決算額)	R5(予算額)		
		人工			
1	高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施(ポピュレーションアプローチ)	1,185	1,639	地域活動の場等において、フレイル予防(食事・口腔・運動)について健康教育等の実施:25会場、60回実施。参加延人数950人。	高齢者質問票の結果に合わせて健康教育の内容(口腔・食事・運動)を検討しながら、専門職や関係機関と連携して実施。
		1.0			
2	地域支え合い座談会	15,098	19,463	コロナ禍の影響により開催を中止する期間もあったが、それ以外は定期的に実施ができた。地区によっては成果も出てきており、それらの情報共有も行った。	高齢者のみならず、子どもや障がい者も含めてその地域の課題を解消する仕組みの構築を目指す。
		0.25			
3	後期高齢者福祉医療費給付事業	195,348	232,194	一定の要件を満たす後期高齢者医療制度の被保険者に対し医療費の一部を支給した。	高齢者が安心して医療を受けられるよう、他制度との調整を行いつつ医療費助成の取り組みを進める。
		0.43			
3	在宅医療・介護連携サポートセンター事業	11,011	11,377	多職種研修会実施による顔の見える関係性の構築や啓発用リーフレットの作成など在宅医療・介護の体制づくりを行った。	医療や介護人材の不足解消に向けた取り組みなど在宅医療介護に係る課題に取り組み連携強化を図る。
		0.4			
4	認知症VR体験会	258	340	定員上限の40名が受講し、認知症への理解が深まったとの意見が多かった。	学校や企業で実施するなど、幅広い世代に同様の企画を実施。
		0.1			
4	高齢者見守りサポーター養成	70	125	31名申込で延68名が受講。6名がサポーター登録。	新規サポーターの養成及びフォローアップの実施。
		0.1			
5	電源あんしんネットワーク事業	0	0	登録者増加に向け啓発活動を行った。ポートレース場に登録者が実際に避難し、医療機器を使用した避難訓練を行った。	市民病院との連携体制の強化や夜間の訓練など災害時等の支援体制の強化を図る。
		0.1			

総括評価	成果	新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、制限を受ける部分もあったが開催方法を工夫する等し教室や研修会等の事業が実施出来た。 参加者数についても、前年度を上回るものも多かった。
	課題	新型コロナウイルス感染症の外出自粛等が高齢者に与えた影響は大きく、制限解除後に地域の活動などをコロナ前の水準まで戻すことが急務となる。 また、高齢者が増加する中、地域の理解や協力を得ながら事業を行っていくことが重要となる。
	今後の方向	高齢者が活躍する場の提供や外出の機会を作る等、要介護者を増やさない取り組みを行っていく。 また、地域での見守り等支え合いの仕組みを構築していく。